



## 資 料

本章においては、昨年度、本研究で開発した「自己評価シート」など指導資料【基礎編】の抜粋や慶應義塾大学が行った自尊感情に関わる国際比較などの資料を掲載しています。

## 自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点

3つの観点	発達段階 自尊感情尺度のキーワード ( )は7ページの自尊感情尺度の番号	小観点	I期【幼児期】(4～5歳)	II期【児童期前期】(6～10歳)
			就学前教育	小学校第1学年～小学校第4学年
A 自己評価・自己受容	<input type="checkbox"/> 自己への満足感(1) <input type="checkbox"/> 自己愛(4、13) <input type="checkbox"/> 自己の価値(7、10、16、22) <input type="checkbox"/> 自己の存在感(19)	①成果の発揮 ②相互理解 ③努力の評価 ④よさの気付き 自分のよさを実感し、自分を肯定的に認めることができるようにします。	自分で考えたことやできるようになったことを発揮できる場を設定するようにします。	得意なことや頑張ったことの成果を発揮できる場を設定するようにします。
			互いのアイデアを取り入れ、認め合えるようにします。	互いの得意なことや好きなことを認め合えるようにします。
			自分の思いで取り組んだり、挑戦したりしていることを認めるようにします。	新しくできるようになったり、繰り返し努力して取り組んだりしたことを認めるようにします。
			自分の得意なことや一人でできるようになったことに気付くことができるようになります。	自分の長所や繰り返し努力してできるようになったことに気付くようになります。
B 関係の中での自己	<input type="checkbox"/> 傾聴の態度(2) <input type="checkbox"/> 他者への貢献意欲(5、14) <input type="checkbox"/> 他者への共感・理解(8) <input type="checkbox"/> 自己の理解者の存在(11) <input type="checkbox"/> 他者への感謝(17) <input type="checkbox"/> 他者の存在認識(20)	①他者理解 ②理解者の存在の気付き ③貢献意欲 ④支えの気付き ⑤まじりの遵守 多様な人との関わりを通して、自分が周りの人の役に立っていることや周りの人の存在の大切さに気付くようになります。	自分がしたい遊びと友達がしたい遊びは必ずしも一致しないことに気付くことができますようにします。	同じ事柄でも様々な考え方があることや、友達が努力して取り組んでいることに気付くことができますようにします。
			身近な大人や自分と一緒に遊んでくれる友達等がいることに気付くことができますようにします。	自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができますようにします。
			友達等のために行動できたことを認めるようにします。	学級の友達等のためにできることや頑張れることを考え、実行できたことを認めるようにします。
			友達の存在が活動の楽しさや新しいことの発見につながることに気付くことができますようにします。	友達等と協力し合うことで、楽しくよりよい生活を送れること、様々な人と関わり合いながら生活していることに気付くことができますようにします。
			友達等と一緒に遊び方を工夫してまじりを決め、それを守って行動できるようにします。	自分たちでまじりを決めて活動し、それを守って行動できるようにします。
C 自己主張・自己決定	<input type="checkbox"/> 自己主張(3、15) <input type="checkbox"/> 個性の尊重(21) <input type="checkbox"/> 自己の可能性(6) <input type="checkbox"/> 自己信念(9) <input type="checkbox"/> 自己理解(12) <input type="checkbox"/> 自己決定(18)	①自己信念の遂行意欲 ②個性の認知 ③可能性の認知 ついて気付くようになります。今の自分を受け止め、自分の可能性に	自分のやりたいことを友達等に話したり、ものごと到最后まで取り組んだりすることができるようにします。	自分で決めたことは、最後まで取り組むことができるようになります。
			自分のよいところだけでなく、失敗や間違いをしても頑張ったことを認められるようになります。	自分のよいところだけでなく苦手や不得意なところも受け止め、自分らしさとして認められるようになります。
			自分の好きなことについて考えたり、工夫して遊んだりすることができるようにします。	自分が得意なことを生かしたり、興味をもっていることについて友達等に話したりすることができるようになります。

※平成21年度東京都教職員研修センター紀要第9号、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領を参考に作成した。

Ⅲ期 【児童期後期～思春期前期】（11～14歳）	Ⅳ期 【思春期後期～青年期前期】（15～18歳）
小学校第5学年～中学校第2学年	中学校第3学年～高等学校
自分が取り組んだことの成果を発揮できる場を設定するようにします。	自分が取り組んだことの成果を発揮できる場を設定するようにします。
互いの考え方や努力したことを肯定的に認め合えるようにします。	互いの考え方や生き方、目標などを肯定的に認め合えるようにします。
前回できなかったことができるように努力して取り組んでいることを認めるようにします。	既習内容を繰り返し確認したり、前回できなかったことを努力して取り組んだりしていることを認めるようにします。
自分の長所や粘り強く意欲的に取り組んで困難を克服したことに気付くようにします。	自分の長所や新たな課題などに取り組んで自分の行動が他により影響を与えたことに気付くようにします。
同じ事柄でも様々な考え方があったり、友達が困難や悩みを努力して乗り越えようとしていることに気付くことができるようにします。	様々な考え方や行動の仕方があること、困難や悩みを克服しようとしていること、各自の適性に合った役割があることに気付くことができるようにします。
自分のためにアドバイスをしてくれる人がいることに気付くようにします。	自分のよさを認めてくれたり、困難や悩みを相談できたりする人がいることに気付くようにします。
自分の行動が人の役に立っていることや学級全体や学校全体のことを考え、工夫して活動できたことを認めるようにします。	所属する集団の活動に主体的に参画するとともに、組織全体のためになることを考えながら工夫して活動できたことを認めるようにします。
友達が存在が学校生活を充実させているとともに、一人一人の活動は周りの人の助けがあって成り立っていることに気付くことができるようにします。	集団の仲間等、身近な人達の支えがあって、自分の目標が実現したり、活動が充実したりしていることに気付くことができるようにします。
自分たちでつくった組織のきまりを自主的に守って活動できるようにします。	自分たちでつくった組織のきまりを自主的に守って活動したり、さらに改善できるようにします。
自分が正しいと思い、やろうと決めたことは、最後まで粘り強く取り組むことができるようにします。	何が正しいか判断し、自分が決めたことを最後まで責任をもって取り組めるようにします。
他者と比較せず、自分の長所だけでなく、短所を受け止め、自分らしさを伸ばしていけるようにします。	長所と短所、興味や関心の動向等を含めて自分の個性として受け止め、伸ばしていけるようにします。
将来について考えたり、その実現のために得意なことや好きなことを伸ばしたりすることができるようにします。	自分の進路について考えたり、その実現のために得意なことや好きなことを伸ばしていくための方法を選択したりすることができるようにします。

# 【自尊心測定尺度（東京都版）】

## 児童・生徒用 自己評価シート （小学校4年生～高校生対象）

これは、皆さんの気持ちについて、学校での様子を中心におたずねするアンケートです。  
個人的なことを質問していますが、皆さんからいただいた個人情報**は厳重に保護**されます。  
また、すべて数字で分析しますので、誰が答えたものか特定されることはありません。

### 自己評価シート（アンケート）に答えるときの注意点

- ①記入例を見て、正しく答えるようにしてください。
  - ②全ての質問に答えてください。
  - ③どの質問にも、正しい答えはありません。
- 答えにくいものは、自分の気持ちに一番近いものをつけてください。  
質問を読んで思ったままに答えるようにして下さい。

学校名	年	組	番
学年・組・番			
名前			

# 【自尊心測定尺度（東京都版）】

## 質問に対して、自分の気持ちに近い数字に○をつけてください。

「あてはまる」場合は4、「どちらかといえばあてはまる」場合は3、「どちらか」と「あてはまる」と「あてはまらない」場合は2、「あてはまらない」場合は1を○でかこんでください。

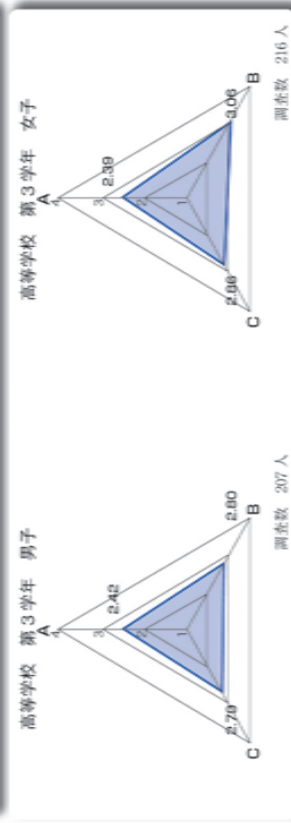
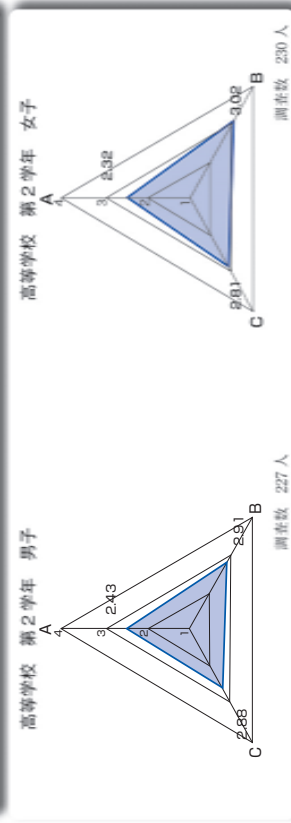
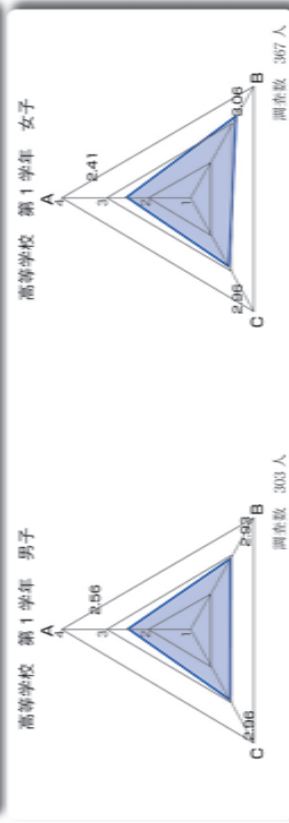
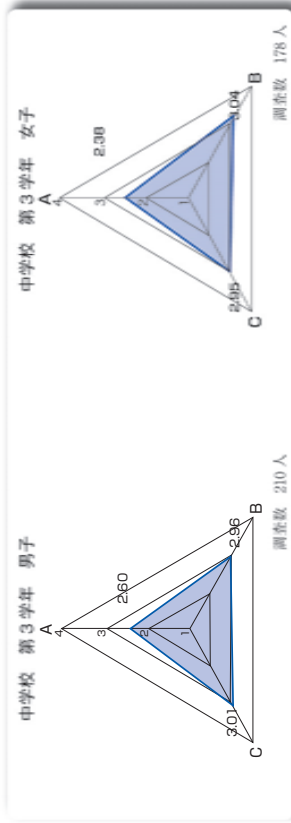
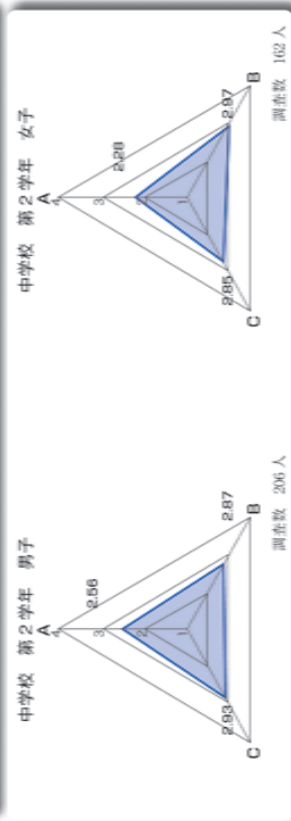
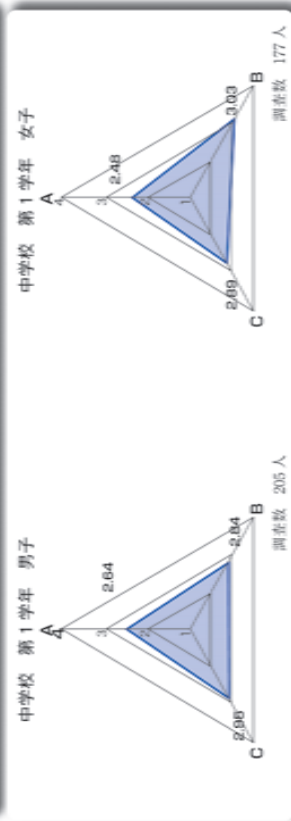
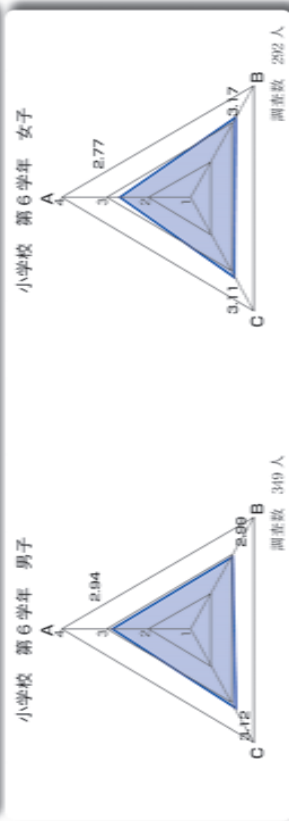
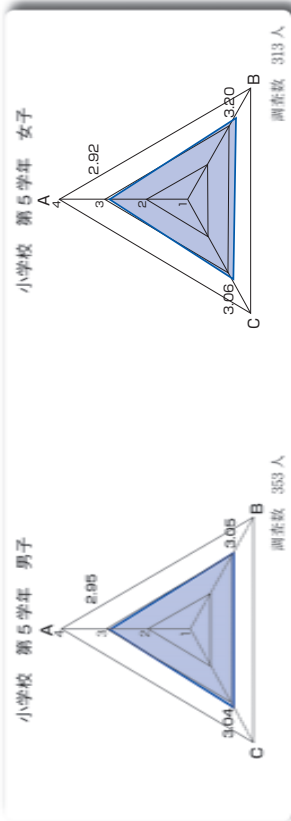
＜記入例＞  
例) 冬よりも秋が好きである

あては どちらかと どちらかと どちらかと  
 まる いうと いうと いうと  
 ……4… 3… 2… 2… 1…

No	項 目
1	私は今の自分に満足している
2	人の意見を素直に聞くことができる
3	人と違っても自分が正しいと思うことは主張できる
4	私は自分のことが好きである
5	私は人のために力を尽くしたい
6	自分の中には様々な可能性がある
7	自分はダメな人間だと思ふことがある
8	私はほかの人の気持ちになることができる
9	私は自分の判断や行動を盾にすることができる
10	私は自分という存在を大切に思える
11	私には自分のことを理解してくれる人がいる
12	私は自分の長所も短所もよく分かっている
13	私は今の自分は嫌いだ
14	人に迷惑がかららないよう、いつたん決めたことには責任をもって取り組む
15	私には誰にも負けないもの（こと）がある
16	自分にはよいところがある
17	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している
18	私は自分のことは自分で決めたいと思う
19	自分は誰の役にも立っていないと思う
20	私には自分のことを必要としてくれる人がいる
21	私は自分の個性を大事にしたい
22	私は人と同じくらいい価値のある人間である

自尊感情測定尺度 (東京都版) 「自己評価シート」による東京都の児童・生徒の調査結果

平成21年12月～平成22年1月実施



# 諸外国における子供の自尊感情の傾向～日本の子供との比較から～

## 1 日本と中華人民共和国における子供の自尊感情の比較

日本と中国の子供の自尊感情の傾向を慶應義塾大学が調査・研究した結果、次のような特徴があることが分かりました。

### <調査> 自尊感情の傾向、学校環境適応感、学校享受感について

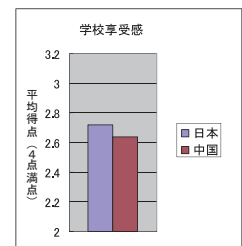
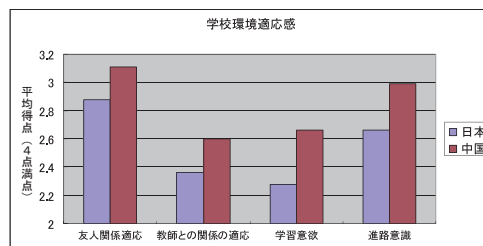
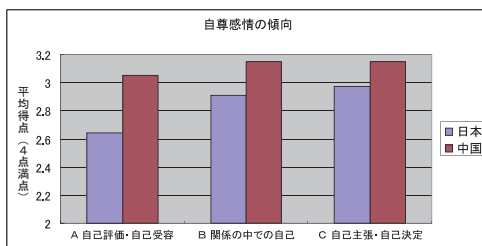
調査時期及び対象：

日本 時期：平成21年12月～平成22年1月、対象：都内中学生・高校生（回答2,689人）

中国 時期：平成22年9月～12月、対象：北京市の中高一貫校の中学生・高校生（回答1,011人）

「自尊感情や自己肯定感に関する研究」報告書 追補版（慶應義塾大学 平成23年9月）より作成

- 中国の子供は、日本の子供よりも自尊感情は高い傾向にあります。
- 友人や教師との関係への適応、学習意欲、進路意識といった学校環境適応感は、中国の子供の方が高い傾向にあります。
- 「学校が楽しい」、「学校が好き」という学校享受感は、中国の子供よりも日本の子供の方が高い傾向にあります。



※本調査は自尊感情測定尺度（東京都版）を活用した。

現時点で考察してみると、中国で考えられている自尊感情というのは、プラスの意味が強いということです。中国の文化が、自分を評価するということが全面的にプラスの意味合いをもつものに対して、日本の場合は、自己主張とか自己評価をするということが、必ずしもプラスだけに受け止められなくて、ややもすれば、わがままとか、自己中心性とかにつながると捉える可能性がある。人との関係を考えるときも、依存というような意味合いにつながると捉える可能性があるのではないかと考えます。

この結果から、日本の子供たちの自尊感情が低く、だからすごく「危険だ、悪い」というわけではないと考えます。学校が楽しいというレベルでは変わりません。でも自分を評価する、自分で自分の良し悪しを決める、ということになると、日本の子供たちはやや消極的に答えます。ですから、その辺にもしかしたら国民性があるのか、はっきりと「できる」と言いにくい日本人の特徴というのがもしかしたら出ているのかなということを感じています。

（平成23年8月11日 夏季集中講座 伊藤美奈子教授講演より要約）

## 2 日本と大韓民国における子供の自尊感情の比較

日本と韓国の子供の自尊感情の傾向を慶應義塾大学が調査・研究した結果、次のような特徴がありました。

### <調査> 自尊感情の傾向について

調査時期及び対象：

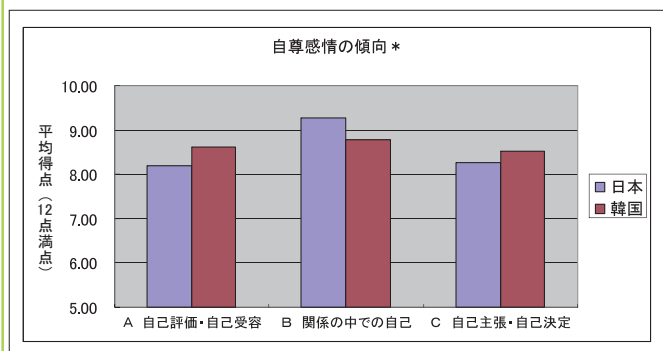
日本 時期：平成21年11月～平成22年3月、対象：都内在住中学校2年生～高校2年生（回答711人）

韓国 時期：平成21年11月～平成22年3月、対象：ソウル特別市行政区の中学校2年生～高校2年生（回答771人）

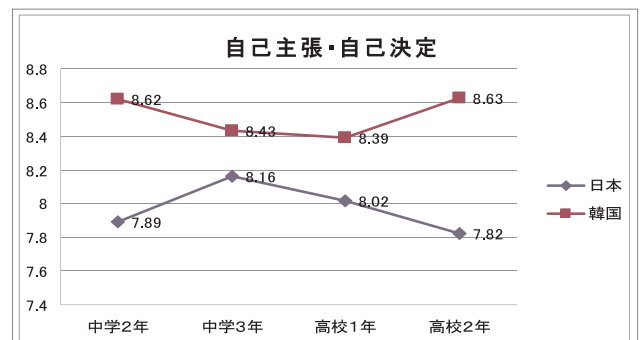
「自尊感情や自己肯定感に関する研究」報告書 追補版（慶應義塾大学 平成23年9月）より作成

結果：「B 関係の中での自己」は日本の子供が高く、「A 自己評価・自己受容」  
「C 自己主張・自己決定」は韓国の子供が高い傾向にありました。

日本の中学校3年生は、高等学校への入試を控える時期に、進路意識と関連する観点である「C 自己主張・自己決定」が高くなるという傾向があります。また両国とも、友人や教師、家族など身近な他者との関係をうまく築けるほど自尊感情が高まる傾向にあることが分かりました。



\*本調査は、「自尊感情測定尺度（東京都版）」とは異なる尺度を活用しています。



国際的な比較調査から、日本の青少年の自尊感情が低い傾向にあると言われていますが、今回の慶應義塾大学の調査・研究では、「A 自己評価・自己受容」と「C 自己主張・自己決定」の観点の低さが、自尊感情の低さに影響するのではないかと考察されています。

これらのことから、発達段階において自尊感情が低くなる中学生や高校生に対して、自分のよさや価値に気づき、自分自身を肯定的に認める「A 自己評価・自己受容」の観点に関わる指導とともに、自分の個性を認識したり、進路意識を高めたりする「C 自己主張・自己決定」に関わる指導がより求められます。そのための教師や友人、家族からのサポートを十分に受けられる環境づくりが大切です。

### 3 アメリカ合衆国・中華人民共和国・大韓民国と日本における子供の自尊感情

アメリカ合衆国等の諸外国における子供の自尊感情の傾向については、次のような調査結果があります。

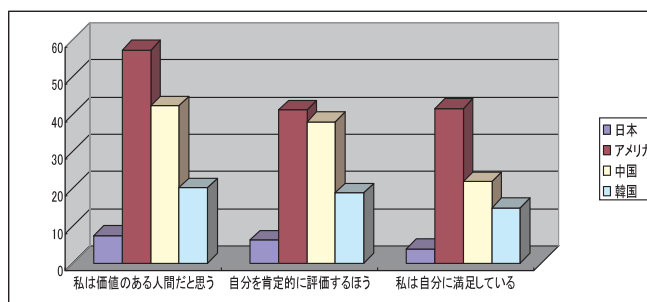
#### 自己評価

調査時期及び対象

日本	実施時期：2010年9月～11月、	対象：高校生（10校 サンプル数1,113票）
米国	実施時期：2010年9月～10月、	対象：高校生（13校 サンプル数1,011票）
中国	実施時期：2010年9月～11月、	対象：高校生（10校 サンプル数1,176票）
韓国	実施時期：2010年6月～7月、	対象：高校生（121校 サンプル数3,933票）

#### <概観>

全般に、米国と中国の高校生の自己肯定感（自尊感情）は強く、日本の高校生の自己評価は4カ国中最も低い。韓国は米中と日本の中間に位置する。日本の高校生は、自分に対する満足度も低く、4人に3人までが、自分に不満足な状態にある。「優秀さ」の自覚も4カ国中最低である。



グラフは下記出典のデータより東京都教職員研修センターが作成

一方、日本の高校生で比較的肯定率が高かったのは、「人とうまく協力できる」「辛いことも乗り越えられる」「希望はいつか叶う」といった“協調性”や“忍耐力”に関する項目である。米国と中国の高校生には、“ポジティブシンキング”という共通点が見られたが、米中を比較すると、米国は成功へのこだわりが強く、その分失敗したときのショックが大きいこと、中国は“自分の感情を上手くコントロールできない”という認識をもっていることが見て取れた。

男女別では、日本の場合、男子より女子の自己肯定感が低く、項目によっては10ポイント以上の差がついている。米国の場合も女子の方が自己肯定感は低いですが、その差は日本の場合より小さい。米国の女子で男子より目立って低いのは、「失敗しても落ち込まない」「すぐに立ち直れる」といった“精神面のタフさ”に関する項目である。中国では、多くの項目で男女の差が小さい。

日本の高校生に関しては、全体的に成績上位者ほど、自己肯定感が高いことがわかった。

（下線は、東京都教職員研修センターによる）

出典：「高校生の心と体の健康に関する調査 報告書－日本・米国・中国・韓国の比較－」  
 II ころの健康 3 自己評価 から抜粋  
 （財団法人 一ツ橋文芸教育振興会 財団法人 日本青少年研究所2011年3月）

子供の自尊感情を高める教育の充実のためには、本研究「自尊感情や自己肯定感に関する研究」の研究成果として明らかとなった「自尊感情の3つの観点」のバランスに着目して指導を工夫することが大切です。また、国際比較意識調査の結果なども踏まえると、子供たちが、単に自分を主張するのではなく、他者との関係の中で自信をもって主張することができるようになり、他者の大切さを認めることができるようになり、自分と他者とのバランスを保った自尊感情を高める指導の工夫が大切です。



## 東京都における自尊感情や自己肯定感に関する施策・研究等経過

平成20年度	東京都教職員研修センター 教育課題研究 研究主題 「自尊感情や自己肯定感に関する研究—幼児・児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高める指導の在り方—」
平成20年5月	協議委員 慶應義塾大学教職課程センター 教授 伊藤美奈子 東京都教育ビジョン（第2次）策定 視点3 子供・若者の未来を応援する 子供の自尊感情や自己肯定感を高めるための教育の充実
平成21年2月	教育課題研究発表会にて研究報告 参加者数174名 ○東京都における小学校第1学年から高等学校第3学年までの自尊感情の傾向を把握 ○発達段階に応じた指導上の留意点の検討 ○自尊感情を高めるための指導モデルの開発
平成21年度	平成21年度の教育庁主要施策 【基本方針2 「豊かな個性」と創造力の伸長】 (2) [自尊感情の形成と言語能力の育成] (指導部)
平成21年8月	東京都教職員研修センター 教育課題研究 研究主題 「自尊感情や自己肯定感に関する研究（第2年次）」 研究協力大学 慶應義塾大学 研究協力校 大田区立小池小学校 第1回 子供の自尊感情を高めるための教育研究推進本部会議 (主管課 教育庁指導部指導企画課)
平成21年11月	研究協力校 大田区立小池小学校 研究発表会
平成22年2月	教育課題研究発表会にて研究報告 参加者数148名 ○自尊感情の傾向にかかわる要因の明確化 ○学校教育で活用できる自尊感情の傾向把握のための「自己評価シート」等の開発（研究協力大学との共同研究） ○自尊感情の傾向を踏まえた効果的な指導方法の開発
平成22年2月	第2回 子供の自尊感情を高めるための教育研究推進本部会議 (主管課 教育庁指導部指導企画課)
平成22年3月	パンフレット「自信 やる気 確かな自我を育てるために」作成 都内公立学校・園配布、慶應義塾大学による調査研究報告書発行
平成22年度	平成22年度教育庁主要施策 Ⅲ子供を伸ばす（子供・若者の未来を応援する） <国際社会で活躍できる人材を育てる> 【子供の自尊感情や自己肯定感を高めるための教育の充実】（指導部）
平成22年8月	東京都教職員研修センター 教育課題研究 研究主題 「自尊感情や自己肯定感に関する研究（第3年次）」 研究協力大学 慶應義塾大学 研究協力校・園 文京区立第一幼稚園 荒川区立峡田小学校 立川市立立川第三中学校 都立荻窪高等学校
平成23年1月	平成22年度 夏季集中講座 学習指導B シンポジウム「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導実践」 【第1回 研究協力大学及び研究協力校・園 合同連絡会を兼ねる】参加者数333名
平成23年2月	第3回 子供の自尊感情を高めるための教育研究推進本部会議 (主管課 東京都教職員研修センター研修部教育開発課) 教育課題研究発表会にて研究報告 参加者数273名 【第2回 研究協力大学及び研究協力校・園 合同連絡会を兼ねる】 ○自尊感情の傾向を発達段階に応じて適切に把握する方法の開発 (研究協力大学、研究協力校・園との共同研究) ○自尊感情の傾向の改善に資する資料の開発（分析及び実践事例等） ○自尊感情や自尊感情を高める教育の推進に活用できる指導資料の開発
平成23年3月	研究協力校 荒川区立峡田小学校 研究発表会 指導資料「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【基礎編】」作成 都内公立学校・園 全教員配布（4月）、慶應義塾大学による調査研究報告書発行
平成23年度	東京都教育ビジョン（第2次）に示された12の「取組の方向」 <国際社会で活躍できる人材を育てる> 【子供の自尊感情や自己肯定感を高めるための教育の充実】（指導部）
平成23年8月	東京都教職員研修センター 教育課題研究 研究主題 「自尊感情や自己肯定感に関する研究（4年次）」 研究協力大学 慶應義塾大学 研究協力校 国分寺市立第五小学校 清瀬市立清瀬中学校 都立第三商業高等学校 都立墨田特別支援学校
平成24年1月	平成23年度 夏季集中講座 シンポジウム「子供が将来への夢や希望をもてるために～様々な視点から子供の自尊感情や自己肯定感を考える～」参加者数453名
平成24年2月	第4回 子供の自尊感情を高めるための教育研究推進本部会議 (主管課 東京都教職員研修センター研修部教育開発課) 研究協力校 都立墨田特別支援学校 公開授業研究会 教育課題研究発表会にて研究報告 参加者数279名 【第3回 研究協力大学及び研究協力校 合同連絡会を兼ねる】 ○自己評価を行うことが難しい子供の自尊感情の傾向を把握する方法の開発 ○学校の教育活動全体を通じた意図的・計画的・組織的な取組方法の開発 (研究協力大学、研究協力校との共同研究)
平成24年3月	研究協力校 国分寺市立第五小学校 研究発表会 指導資料「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【発展編】」作成 都内公立学校・園 全教員配布（4月）、慶應義塾大学による調査研究報告書発行

## 【参考文献・引用文献】

- ・平成21年度における児童・生徒の問題行動等の実態について  
東京都教育委員会 平成22年8月5日
- ・平成22年度における児童・生徒の問題行動等の実態について  
東京都教育委員会 平成23年8月4日
- ・東京の子供たちの豊かな心の育成に関するアンケート調査  
東京都教育委員会 平成23年6月
- ・高校生の心と体の健康に関する調査 報告書 日本・米国・中国・韓国の比較  
財団法人一ツ橋文芸教育振興会 財団法人日本青少年研究所 平成23年2月
- ・高校生の意欲に関する調査－日本・米国・中国・韓国との比較－  
財団法人一ツ橋文芸教育振興会 財団法人日本青少年研究所 平成19年4月

他各種調査結果資料

- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について  
(答申)中央教育審議会 平成20年1月17日
- ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 平成20年10月
- ・小学校学習指導要領 文部科学省 平成20年3月告示
- ・中学校学習指導要領 文部科学省 平成20年3月告示
- ・高等学校学習指導要領 文部科学省 平成21年3月告示
- ・特別支援学校幼稚園教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領 平成21年3月告示
- ・今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について 中央教育審議会 平成23年1月31日
- ・小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引－児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために  
文部科学省 平成18年11月
- ・「生徒指導体制の在り方について調査研究」報告書－規範意識の醸成を目指して－  
国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成18年5月
- ・生徒指導資料第3集 規範意識をはぐくむ生徒指導体制－小学校・中学校・高等学校の実践事例22から学ぶ－  
国立教育政策研究所 生活指導センター 平成20年3月
- ・CS研レポートVol.55 教科教育研究所編 啓林館 平成17年6月 収録 国立教育政策研究所 総括研究官  
滝 充「規範意識の形成と教師の指導力」
- ・東京都教職員研修センター紀要第8～10号 平成21年3月、平成22年3月、平成23年3月
- ・自尊感情や自己肯定感に関する研究報告書 慶應義塾大学 平成22年3月版、平成23年3月版
- ・自尊感情や自己肯定感に関する研究報告書 慶應義塾大学 追補版 平成23年9月
- ・個人志向性・社会志向性から見た人格形成に関する一研究 伊藤美奈子 北大路書房 平成9年3月
- ・自己意識の心理学 梶田毅一 東京大学出版会 昭和63年2月
- ・セルフエスティームの心理学 自己価値の探究 遠藤辰雄 蘭千壽 井上祥治 ナカニシヤ出版 平成4年6月
- ・他人を見下す若者たち 速水敏彦 講談社現代新書 平成18年2月
- ・人権教育プログラム(学校教育編) 東京都教育委員会 平成23年3月
- ・人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕 文部科学省 平成20年3月
- ・データが語る〈2〉子どもの実態－学習意欲・友だち関係・規範意識を徹底検証(データが語る 2)  
河村茂雄 図書文化社 平成19年4月
- ・エンカウンターで学級が変わる 中学校編 国分康孝(監修)片野智治(編集)図書文化社 平成8年11月
- ・高校生のキャリアノート 全国高等学校進路指導協議会編 実務教育出版
- ・自尊感情をはぐくむ道徳授業と資料集 中学校編 佐久間奈々子 明治図書 平成23年5月
- ・教室で自尊感情を高める デニス・ローレンス 田研出版株式会社 平成20年9月
- ・中学校「セルフ・エスティーム」をはぐくむ授業づくり 安東茂樹 静岡大学教育学部附属浜松中学校  
明治図書 平成19年8月
- ・なぜ日本の若者は自立できないのか 岡田尊司 小学館 平成22年11月
- ・新しい国語四上 東京書籍 平成22年
- ・中学校道徳2 明日をひらく 東京書籍 平成22年
- ・中学道徳 きみがいちばんひかるとき②「友達はライバル」 光村図書 平成21年
- ・はらぺこあおむし エリック・カール 偕成社 平成元年2月
- ・われら中学生第3集 文英堂 平成12年 収録 「ちいちゃんの爪は短かった」蔵原聖子作

他各種研究資料